

(様式4)

県政調査報告書

平成28年2月18日

県議会議長 土井 りゅうすけ 殿

会派名 公明党神奈川県議会議員団

団長名 小野寺 慎一郎

(署名又は記名押印)



県政調査を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

| | |
|--------|--|
| 1 調査議員 | (調査団長) 小野寺 慎一郎 (団員) 藤井 深介 渡辺 ひとし 西村 くにこ |
| 2 調査目的 | 地方創生の柱の一つである地方移住についての取組や、地域資源を活用した観光施策・外国人観光客誘致の取組等を調査することにより、今後の本県における施策推進の参考とする。 |
| 3 調査期間 | 平成27年11月18日～平成27年11月20日 |
| 4 調査地 | 京都府、滋賀県 |
| 5 調査内容 | (別添のとおり) |



公明党神奈川県議会議員団

県政調査報告書



京都府庁にて

日程：平成27年11月18日(水)～20日(金)

< 視察地 >

京都府

- (調査項目) 1 . 地方移住相談の状況について
2 . 外国人観光客誘致について

近江八幡市

- (調査項目) 日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」の一部である
近江八幡の水郷について

滋賀県

- (調査項目) 「琵琶湖とその水辺景観」の日本遺産認定までの経緯と取
組について

美山ふるさと株式会社

- (調査項目) 地域資源を活用した観光や移住について

美山町観光協会

- (調査項目) 地域資源を活用した観光について

- 1 地方移住相談の状況について

1 京都府の移住促進の取組について

京都府では、過疎化・高齢化の進む農山村地域対策として、新たな担い手の確保のため、都市部の若年層を中心とした外部人材の移住を促進し、地域再生を加速させる取組を支援するとともに、「命の里」として維持・再生が図れるように、里の人づくりや基礎づくりに関する事業も行っている。

その取組の主なものとして「京都移住コンシェルジュ」の設置や「里の仕事人」の派遣を行っている。

2 「京都移住コンシェルジュ」の概要

「移住相談」から「現地案内」・「地域定着」までの伴走支援を行う総合案内人。

<実施内容>

大阪市内の移住相談窓口における相談対応・情報提供
移住希望者の現地案内、地域でのネットワークづくり
移住セミナーや移住ツアー等のイベントの開催 等

3 「里の仕事人」の概要

京都府の職名。

過疎化・高齢化の進む農山村地域の再生支援の一つである「里の人づくり」として、複数集落の連携や集落とNPO等多様な主体が連携した組織の育成及び活動支援、行政（里の仕事人）や民間人材（里の仕掛人）の派遣が実施されている。



< 京都移住コンシェルジュ(一番右) >



4 質疑応答

Q．里の仕事人は、担当する市町村の役場に出勤することはないのか。

A．地域づくり推進室の職員。机はあるが、専ら公民館など現地で地域住民の中に入って行う仕事が多い。イベント等にも土日含め、取り組んでもらっている。

何をしたらよいかわからないという悩みも多いので、研修も行っている。

Q．里の仕事人は、専任7名・兼任7名とのことだが、この人員で今後も足りるのか。

A．到底足りない。1人が複数の集落を担当している。

農山村地域が、過疎化・高齢化したことから始めたものである。

Q．移住者の就労者数について伺いたい。

A．移住希望者は仕事よりも、まず、場所を探すという方が多い。仕事を求めて移住してくるというわけではなく、「田舎暮らしをしたい」という動機でやってくる。ただ、収入や住居がないと生きていられないので、それらを探すことになる。

Q．移住者のライフスタイルは。

A．独身の方は、自分の食べるものは自分で、というように自給自足をされている方もいる。

都会からきた方は、無農薬野菜を作ったりとかして、しっかりとその方の

ライフスタイルにあわせて生活している。半農半Xというように。

高収入を求めている方は、ほとんど移住してこない。

Q．移住希望者の生き方によって、相談を受けているようだが、何回も相談は受けるのか。

A．1日目に、1時間半ぐらいお話しをさせていただいている。

その後は、個々の対応となる。まずは、相談者の要望を、誘導することなしにしっかりと聞き取ることから始める。

「里の仕事人」との連携も密にするようにしている。彼らは、それぞれの「村」がどんな移住者を求めているのか熟知しているからだ。

「里の仕事人」は、1、2年の仕事ではなく、10年ぐらいの長さで、その地域と関わっている。

Q．（移住者と地域の）ミスマッチを起こしたことはないのか。

A．移住者は、旅行感覚でこられる方もいる。

受け入れる側は、添い遂げてくれるということを望んでおられるので、マッチさせるようにしている。

Q．移住促進に、今、何が必要か。

A．賃貸の空き家。ただ、地域の信頼がないとなかなか貸していただけない。

Q．今、この体制で必要なものは何か。

A．覚悟を持った職員。

Q．「京都府空家及び耕作放棄地の活用による移住促進に関する条例(仮称)」も制定されるようだが。

A．職員も燃えてきている。みんな、思いのある人で、(京都移住計画が始まった)1年前とは顔つきも変わってきている。

5 <視察を終えて>

私たちが圧倒されたのは、移住施策に関わる府職員の情熱と確固としたポリシーだった。

悠々自適に別荘でも構えようとする人や、ただ田舎ならいい(街中では窯の設置が困難な陶芸家など)という理由だけで集落に入ることに関心のない人は、どうぞ不動産屋さんに行ってください、といった案配である。

京都府としてはこれまでも農山漁村地域の少子高齢化と過疎化に対してはアクションプランに従って着々とその対策を進めてきたが、いよいよ地域の住民だけでは担いきれなくなり、移住者の積極的な受け入れに舵を切ったという話を聞いた。これは現在の神奈川県も直面しつつある課題であると感じた。

また、一口に農山漁村といっても、地域ごとに何をしたいかは、それぞれである。農産物を活用して特産品を作りたいところもあれば、民泊を推進したいところ、福祉バスを走らせたいというところもある。府職員である「里の仕事人」はそれぞれの地域が、それぞれの地域の実情に合わせて取り組む「地域再生計画」づくりを支援する。「地域の社会経済的問題の解決方法は地域の中に見出す」というモットーが示す通り、地域の中でファシリテーターとしての役割を果たしているのだと思う。

「京都移住コンシェルジュ」の働きも見逃せない。自ら移住を果たした若者たちが、同じく若者世代に地域の魅力を発信する試みは、本県としても参考とすべきである。

- 2 外国人観光客誘致について

1 外国人観光客誘致の取組について

京都府では、観光客は全体としては増加傾向にある。しかし、京都市域に集中しており、外国人観光客の98%は京都市内に宿泊している。

そのため、京都市内での宿泊ホテルの確保が困難な状況も頻出しており、受入態勢の強化が急務とされ、京都市から府域への誘客が課題となっている。

2 京都市から京都府域への誘客対策

(1)地域の魅力発掘・ブラッシュアップ

京都府域は、歴史・伝統・文化に培われ、四季の変化の美しい景観に恵まれ、和食・京野菜・お茶など多彩な食の宝庫であり、外国人観光客にとって、魅力ある地域であるとアピール。

(2)受入環境整備、人材育成

民間ベースでは進みにくい受入県境整備・人材育成を京都府が支援。

- ・ Japan Free Wi-Fi Kyoto を導入し、京都府内約 300 ヶ所に設置 (平成 27 年 9 月末現在)

- ・ 多言語対応の促進として、全宿泊施設で多言語 24 時間コールセンター サービスを導入 等

(3)アクセス、交通利便性の向上

大都市圏と結ぶ高速交通網の整備

- ・ 京都縦貫自動車道の全線開通 (平成 27 年 7 月) 等、関西国際空港から京都府中北部へのアクセスがスムーズに。

(4)情報発信・プロモーション

多角的な誘客プロモーションの推進として、市町合同や府県連携で行われる V J 事業を活用して有力プロガー等の招聘や、知事によるトップセールスで PR。

(5)周遊ルート、旅行商品造成の促進

ターゲットに応じた周遊ルートの提案

- ・ 京都市への訪日外国人は、欧米系のリピーターが多く、日本文化への関心が高く、滞在期間も比較的長い。

その特性を踏まえ、京都府域への魅力あるコースづくり等をしている。

旅行会社を巻き込んだ商品造成の促進

- ・ 地域で売り込みたい資源と、旅行社が売り出したい資源のすりあわせや京都市から府域への送客に係る課題解決とシステムの構築 等

(6) MICEの促進

観光消費額の大きいMICEの開催支援

・平成19年1月に、オール京都体制で「京都文化交流コンベンションビューロー」を設立。情報収集やプロモーション、開催支援まで総合的に支援し、体制強化したことにより、京都での国際会議開催件数は年々増加している。

* MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



3 質疑応答

Q．京都府には、魅力的な景観を持った地域が多い。

ブラッシュアップは、どのようにしているのか。

A．天橋立を滞在促進地区とし、一帯をきれいにさせていただくために、補助金を出している。

Q．Wi-Fiの整備、多言語対応としてのコールセンターは、効果的にはどうか。

A．京都市内では、コールセンター利用は数件。

ホテルの方が、意思の疎通が出来ない時に電話をしてくる。

Q．情報発信・プロモーションについて伺いたい。

A．ブローカーを呼び、情報の発信をしていただいている。

Q．国が観光の目玉として、回遊・周遊をさせようとしているが、地元の方の理解をどのように得ているのか。

A．あらゆるところに観光が入るとというのが、今の観光となっている。

地域の生活、地域の方とのふれあいが観光とされてきている。

地元と観光の宝探しをしようということを行った。

コーディネーターの方に入っただき、地元の人にはなんでもないのであると認識していただいた。

Q. 「お茶の京都」として、宇治茶が日本遺産の認定を受けたことについて伺いたい。

A. そもそも、世界遺産の登録を受けようと考えていたが、とりあえず日本遺産に認定された。

Q. 市町との連携はどのように。

A. 京都府の地域振興局が中心となって行っている。

Q. 冬には京都にも雪が降るとアピールしてはどうか。

A. いつも雪があるとは限らず、アピールするには少し弱い。

4 <視察を終えて>

京都といえば、世界から多くの観光客を集める日本一の観光都市。しかし、それは「京都市内」に限った話であり、いわゆる「府域」への誘客が大きな課題となっている。

京都府が打ち出している「もう一つの京都」＝「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」というコンセプトや、京都市内のことは民間がどんどんやってくれるということで、府として支援している民間ベースでは進みにくい受入環境整備や人材育成の取組みは、新しい観光の核づくりをめざす神奈川県にとっても、大いに参考となる。

地域内交通の充実も観光振興には欠かせないが、ここで注目すべきは京都丹後鉄道（旧北近畿タンゴ鉄道）のがんばりである。赤字で苦しんでいた北近畿タンゴ鉄道が、自身は鉄道施設の保有・管理会社となり、鉄道運営事業をピンクの高速バスで知られる WILLER ALLIANCE に託した（いわゆる上下分離方式）。WILLER は「公共交通のみで暮らせる仕組みを作る」「若い人が働く場所を作る」「交通や街作りを教育する場所にする」をモットーに事業を展開し始めているが、これは鉄道事業会社を公募するにあたって京都府が「鉄道事業再生のために、地域再生も手掛けてほしい」と示した条件に沿ったものである。

新しくスタートした京都丹後鉄道を象徴する列車が、かの水戸岡鋭治氏デザインによる観光列車「丹後くるまつ号」「丹後あかまつ号」「丹後あおまつ号」だ。特に、走るダイニングルームといわれる「くるまつ号」では、地元の料理人監修による地元の食材を使った料理が堪能できるとあって人気を博しているようだ。

京都府の北部や中部は、鉄道網が十分に整備されているとは言い難く、目的地までのアクセスに課題がある。近年では、整備が進む高速道路を使った京都駅からの定期観光バスも増えてきているが、のちに訪れる南丹市美山地区のように、到着後に目的地内を周遊する「アシ」の確保については、「辺地」ならではの課題も残る。

日本遺産「琵琶湖とその水辺景観」の一部である 近江八幡の水郷について

1 近江八幡の水郷について

「近江八幡の水郷」は、重要文化的景観の全国第1号に選定された。

近江八幡は、近江商人発祥地の一つとして知られており、かつては水郷を利用して、ヨシ産業が盛んに行われていた。

ヨシは、屋根材として使われ、ヨシを運んだ後の船で、木材などが運ばれ、産業となった。

ヨシ原は、年に一度火を入れ、また、翌年ヨシを取る。

このヨシ灰は、高値で売れ、ヨシ問屋は繁栄し、自治会費などもいらぬほどであった。

しかし、現在は、防火上の問題で、ヨシ屋根は造られなくなった。

*重要文化的景観とは、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの。

2 近江八幡市の風景づくり

近江八幡市内には、古代から湖上交通の要衝として発展し、歴史とともに培った四季折々の風景があり、琵琶湖の原風景である内湖・西の湖とヨシ原を中心に水と緑豊かな自然と人々の営みが融合した文化的な風景もある。

この美しい風景を大切に守り、はぐくみ、誇りと愛着をもって次世代に引き継ぐために風景に関する基準を設け、最も重要な景域では、伝統的な家並の保存がより図れるよう、特別な基準も設けている。

また、風景の主要素である湖面、水路の中で、良好な眺望を確保する上で重要な水際については「指定湖岸、水路」として位置づけ、追加基準を設けている。

*内湖とは、湖の湖岸の陸側に存在する小さい湖沼の総称。

西の湖は現存する琵琶湖最大の内湖。



3 質疑応答

Q . 「パビリオンのない博覧会」についてお聞きしたい。

A . 日本遺産に「琵琶湖とその水辺景観」が認定されたのを受け、滋賀県と近江八幡市を含む6市などで構成する「日本遺産『水の文化』ツーリズム推進協議会」を設立し、新たなパビリオンなどの建設はせず、あまり観光化されていなかった地域の文化、景観でも魅力をしっかり伝えられる態勢を整え、近江八幡の水郷など琵琶湖周辺に点在する観光地を結ぶ船舶の運航も目指している。

4 <視察を終えて>

近江八幡市においても、京都府同様、担当職員の“熱さ”に胸打たれた。

当初は名勝指定をめざすも、俳句に歌われたり『剣客商売』など映画のロケ地としては有名だったものの他に芸術的優位性は認められないと指定に至らなかったこと。その後の景観法の成立や文化財保護法の改正により重要文化的景観の制度が制定され、そこに活路を見出したこと。そして、近江八幡の水郷こそが、今の時代に残る代表的な日本の原風景であることへの誇りを熱っぽく語っていただいた。

私が強く関心を持ったのは、眺望特性（風景要素の重なり）の保全に対する取り組みである。近江八幡の水郷は、水路—ヨシ地—水田—集落—里山という構成要素のつながりによって、その景観が成立しており、集落の建造物の外観はそこに大きな影響を及ぼす。そこで、近江八幡市の水郷風景計画では、地区ごとに伝統的な建築様式を踏襲した細かな基準を設定し、美しい風景を守ろうとしているのである。

都市部にせよ“田舎”にせよ、わが国が最も苦手としている課題であり、本県においても観光立県をめざすのであれば参考にしていただきたいところである。

「琵琶湖とその水辺景観」の日本遺産認定までの経緯と取組について

1 「琵琶湖とその水辺景観」の日本遺産認定までの経緯

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定する新制度、ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

その認定基準として、ほかの地域では見られない希少性と、地域特有の文化としての地域性が挙げられていた。

そのため、滋賀県は、豊富な歴史資産や、他にはない琵琶湖をメインとした、日々の暮らしにより生まれてきた生活文化を取り上げ、大津市、彦根市、近江八幡市、高島市、東近江市、米原市とともに、平成 27 年 2 月に、日本遺産「認定希望」を、3 月には「認定申請」を提出し、4 月に日本遺産に認定された。

2 今後の取組

- ・平成 27 年度文化芸術振興費補助金事業を実施

<実施内容>

情報発信、人材育成、普及啓発、調査研究、公開活用のための整備にかかる事業

- ・「日本遺産『水の文化』ツーリズム推進協議会」を組織し、6 市と連携をとりつつ事業を進めていく。

<構成団体>

滋賀県（観光交流局・文化財保護課）

（公社）びわこビズターズビューロー・（公財）滋賀県文化財保護協会

大津市、彦根市、近江八幡市、東近江市、米原市の観光・文化財部局

- ・情報発信として、県民に向け広報するとともに、訪日外国人に向けた多言語での広報をする。

- ・貴重な文化の継承に加え、国内外からの誘客による「観光交流」を積極的に図り、「訪れてよし、迎えてよし、地域よしの『観光・三方よし』」が実現できるよう、6 市と連携しながら各地域での受入体制づくりをする。



3 質疑応答

- Q . (日本遺産認定への取組で) 県と市の思いの違いはどうしたのか。
- A . 説得したが、応じてもらえないところもあった。
- Q . 補助金などの関係は、これからどうしていかれるのか。
- A . 認定申請の段階では、予算は全て協議会に託されていたが、県全体のことなので、今後は検討していく。
- Q . 今回、日本遺産に認定されたのは、こちらを含めて 18 件。
18 件のうち、7 件が県及び府。どのように申請を決めたのか。
- A . 知事の決断。文化財と農政部局の職員が動いた。
「近江牛」も観光・旅行の楽しみの 1 つに食事ということもあると思う。
- Q . 今回、忍者の聖地として申請されていた甲賀・伊賀は、今後も申請されるのか。同じ忍者の聖地として、神奈川県小田原市も入れてはどうか。
クールジャパンというと、全国的なことと思われるが。
- A . 今回認定された 18 件は、西に多い。
点を面にしてストーリーを作っていきたい。
- Q . 補助金は、箱物の維持管理には使えないのか。
- A . 補助金で対応できるのは 10 万円まで。作るのは、看板など。ただ、看板は多言語対応なので、20 万円ぐらいかかり、10 万円は補助金以外で支出することになる。

4 <視察を終えて>

日本遺産にはストーリー性が不可欠なために、関係市町にその構築をお願いし、県は取りまとめ役に回ったという。26 年の 9 月から、どのようなストーリーで行くか検討を重ね、12 月に県として「琵琶湖と水」というテーマを固め、27 年に入って構成要素を決めていった。2 月に文化庁に対し、日本遺産「設定希望」を提出したが、文化庁も手探り状態の中で、協議には相

当な苦勞が伴ったものと思う。

琵琶湖沿岸に位置しているにもかかわらず、今回の取組みに参加しなかった自治体もあり、複数の自治体の利害を調整する県の立場のむずかしさも実感する調査だった。

地域資源を活用した観光や移住について

1 美山ふるさと株式会社について

平成 13 年に「定住」を柱として、会社を開いた。

長く守りとおしてきた町の自然と美しい景観を守るため、土地の斡旋や田舎の風土にあった住まい設計、建築工事の請負を行っている。

しかし、売って出て行きたい人が多く、貸す・借りることのできる物件が少ないのが課題。多くの人を訪れても定住になかなかつなげていない。

その他の事業として、特産品の製造販売や宿泊事業、旅行業、一般貸切旅客自動車運送業も手掛けている。

2 地域資源を活用した観光に対するこれまでの取組について

平成元年 美山町営の都市と農村の交流拠点施設として「美山町自然文化村」を開設。都市との交流を推進。

平成 5 年 美山町北地区が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定される。（通称：かやぶきの里）

平成 14 年 農山村の体験を柱とした教育旅行受入開始

平成 15 年 観光入込客が 72 万人を超える。

平成 18 年 町村合併により南丹市となる。

行政主導から市民協働へと変化する。

平成 24 年 インバウンドの急増。（インバウンド元年）

*インバウンド（inbound）とは、外から入ってくる旅行、一般的に訪日外国人旅行を指す。

平成 26 年 「南丹市美山エコツーリズム推進全体構想」が、環境省・農林水産省・国土交通省・文部科学省から認定を受ける。

平成 27 年 初の台湾からの民泊教育旅行受入

「全国エコツーリズム大会 in 美山」開催

3 観光資源

「かやぶきの里の景観」

京都大学研究林 芦生の森が象徴する豊かな自然と昔ながらのかやぶき屋根の家屋。そして、そこに住まう人々の生活。

4 今後の課題

少子高齢化 高齢化率 44%

人口 4,200 人（平成 27.4 現在） 毎年 100 人減少

労働人口の減少、農地の荒廃、地域社会の維持が困難

観光的には、宿泊施設の不備

消費単価の低迷（かやぶきの里では、来町者 1 人あたり平均 750 円）



5 質疑応答

Q . 町村合併により、8つの町が1市になったようだが、地域ごとに意識の違いはあるのか。

A . ある。昔ながらのつながりがある町とそうでない町とは意識の違いはある。

Q . 温泉があるといいですね。

A . 掘れば出るのでしょうが、川の水質保全（鮎の名産地）の関係で掘らずにいるようです。

Q . 町村合併により市になったメリット、デメリットは。

A . 南丹市が頭につき、美山町という名が出なくなったのがデメリットか。

Q . かやぶき屋根が改修され、他の材質の屋根になっている家が見受けられるよだが。

A . かやぶき屋根の家は、230戸から140戸に減っている。

Q . エコツーリズムというのも、神奈川県でも行っているが、いつごろから行っているのか。

A . 平成3年からガイドツアーは行っている。

Q . 観光施設の数は、増やそうとしているのか。

A . している。20件ほどと考えている。

Q . 台湾からの来訪者が多いというが、それは何故か。

A . LCCがあり、ゴールドコース以外のコースを探している台湾の旅行者があるため。

京都市内にはあれだけ来ているので、それをどうこちらまで足を伸ばしていただくかが課題。

また、美山に来るのが多いのは、ネットの影響が大と考える。

我々は、欧・米・豪の方たちにも来ていただきたいが、震災後少し減少している。

Q . 台湾の方が多いのは、雪を見に来るのでしょうかね。

A . そうですね。雪は見に来ますね。

Q . 観光産業で食べている人たちは、民泊なんてされたら困るということはないのか。

A . 宿泊客をとられてしまうかとも思っている方もいると思う。

地域資源を活用した観光について

1 美山町の観光について

美山町のある南丹市は、京都府のほぼ中央に位置し、府下一番の面積で、その大部分が森林で占められ、古いかやぶきの住居が多数現存し、自然景観と見事に調和している。

鉄道もなく、大きな道路もない美山町には、大野・宮島・鶴ヶ岡・平尾・知井の5つの地区があり、その地区ごとに、色々な見所があり、イベントが行われている。

春は桜、夏は鮎つりや川遊び、秋は紅葉、冬は雪遊びと四季折々の楽しみ方が堪能でき、都会では味わえない豊かな自然を彩る季節を楽しむことができる。

<美山町エリアマップ>





重要伝統的建造物群保存地区

南丹市美山町北「茅葺の里」

◆地区の概要

・名 称 南丹市美山町北伝統的建造物群保存地区

・面 積 一・二七・五ヘクタール

・国選定年月日 平成五年十二月八日

◆保存地区の伝統的建造物

〔建築物 六十八棟〕

茅葺主屋 三十棟 茅葺小屋 四棟

トタン屋根 四棟（元茅葺屋根）

瓦葺屋根 十一棟 蔵 十一棟

茅葺以外の小屋 五棟

社寺 四棟

〔工作物 七棟〕

露地門 四棟 堀 三棟

宝篋印塔 一基

〔環境物件 四十五件〕

石垣 三十六カ所 寺院境内 四カ所

地蔵 三カ所 十二躯

石幢 一基 栃の木 一株

保存地区内の民家の約四割は、江戸時代に建築されたものであり、この伝統的な様式は、茅葺屋根で入母屋造、周囲に下屋を巡らし、棟をほぼ東西に揃えており（川の流れの方向）、棟飾りの千木や破風の意匠にも特徴がある。このほかに、伝統的な様式をもつ納屋、土蔵、社寺建築等と屋敷構えの重要な要素となる石垣、石造物等を伝統的建造物又は環境物件として保存をはかっている。



2 質疑応答

Q．美山町に来訪する人が増えているようだが、具体策としてどのようなことをされているのか。

A．ネットによる影響が大だと思われる。

 ブロガーが発信し、それを見て訪れる人が増えている。

 そのため、ブロガーを招待したりしている。

Q．美山町で現在困っていることは何かあるか。

A．特に外国から来る方の、土壇場のキャンセルには悩まされている。

 京都という地名から、京都市に近いと思い予約を入れ、遠いとわかるとキャンセルされてしまうことが多々ある。

Q．これからの対応策としては何か考えているのか。

A．もっと、美山町の魅力を発信していきたいと考えている。

3 <視察を終えて>（美山ふるさと株式会社・美山観光協会）

「美山」を訪れたのは、京都市から列車やバスを乗り継いで2時間もかかる田舎に、台湾からの観光客が殺到しているという報道がきっかけだった。

それでも、宿泊観光客はここ10年で3万7000人から1万7000人に減っているのだという。「かやぶきの里」には年間30万人が訪れるが、その多くは観光バスで来て、日帰りで帰ってしまうらしい。

火災予防のために毎年夏と冬の初め放水銃の点検を兼ねて「一斉放水」を行うのだが、冬のそれが終わるとオフになり、雪景色を活かした冬季のまつりも企画しているのだが、4月までは誘客が厳しくなるということだ。

それでも、平成26年11月には「南丹市美山エコツーリズム推進全体構想」が国から認定を受けたり、27年5月には台湾から民泊教育旅行を受け入れたり、同10月には全国エコツーリズム大会が美山で開かれたりと、明るい話題も多い。また、27年度中に美山町全域を含む丹波高原域が国定公

園にもなる。

エコツアーでは、京都大学の研究林という資源を活かしたスタディツアーが人気だという。けっして安い価格ではないが、森の中で高級なフランス料理を供するプログラムもあるという。まるで、さきごろヒットしたTVドラマ『ナポレオンの村』の滝壺レストランではないか。（ちなみに、あのロケは南足柄市の夕日の滝で行われた）

神奈川県では、現在、「やまなみ五湖水源地域交流の里づくり計画」の改定作業中で、そこにもささやかであるが観光振興の要素が盛り込まれている。水源地域の環境を守りつつ、経済的な振興策や定住促進策も講じなくてはならない。大規模な宿泊施設もなく個人旅行に活路を見出さなくてはならないなど、美山が抱える課題と共通するところも少なくない。

地方創生の一つの典型として、学ぶべきことも多いと感じた。